



# EXTRA, EXPERT AND EXTREME EXPRESS--

2007 VOL.  
**4**

## 全日本史上初となるスーパーポール 驚異的なタイムをマークした秋吉耕佑が制す!

Photo by Y.Harada/H.Wakita(c)



2番グリッド / #87 柳川 明 TEAM GREEN



3番グリッド / #39 酒井 大作 ヨシムラスズキwithJOMO



**JSB 1000**  
All JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

●予選日:天候/晴れ 路面/ドライ ●決勝コースイン/13:55 スタート/14:15(18周)

雄大な阿蘇の自然に囲まれたオートポリスで開催されている全日本ロードレース第4戦。金曜日のA.R.T.合同走行が悪天候のためにキャンセルされ、急ぎ土曜日のタイムスケジュールが変更され、公式予選の前にフリー走行が設けられることになった。このフリー走行が、レースウィーク初走行となるだけに、1週間前にテストをしているチームが有利となった。

公式予選では、オートポリスを得意としている辻村猛のリードで始まったが、ホームコースでもある徳留和樹がコースレコードをたたき出して辻村を上回ってくる。さらに昨年、ポールポジションを獲得している秋吉耕佑が、ただ一人、1分50秒台に入れる圧倒的な速さを見せつけ暫定ポールポジションにつけた。

1ラップのみのタイムアタックとなるスーパーポールには、予選上位12台が進出できる。チームHRCの手島雄介は、予選のセッション後半で転倒。14番手となりスーパーポール進出を逃している。同じく安田毅史も13番手で5列目に並ぶことになってしまった。

スーパーポールは、予選で12番手となった横江竜司から始まった。各ライダーは、予選用タイヤを使い、ワンラップのみの渾身のアタックを見せてくれた。大崎誠之は、第2ヘアピンの立ち上がりでハイサイドとなり、マシンから振り落とされそうになる。何とか立て直し事なきを得るが、スーパーポール最後尾の12番手グリッドとなった。ノリックも一時はトップにつけるなど、観客を沸かせた。コースレコードをコースレコードで塗り替えるハイレベルな戦いを制したのは、韋駄天・秋吉だった。

(中面へ続く)

### TIME TABLE

※タイムテーブルは、変更されることがあります。

09:45 -	GP-MONO スタート進行(コースイン~選手紹介)
10:00 -	GP-MONO 決勝レース..... 8Laps
10:40 -	GP125 スタート進行(コースイン~選手紹介)
10:55 -	GP125 決勝レース..... 14Laps
11:40 -	ST600 スタート進行(コースイン~選手紹介)
11:55 -	ST600 決勝レース..... 16Laps
12:50 -	ビットウォーク(スーパーバイクエクスペリエンス・マスターズラン・キッズパレード)
13:55 -	JSB1000 スタート進行(コースイン~セレモニー・選手紹介)
14:15 -	JSB1000 決勝レース..... 18Laps
15:10 -	GP250 スタート進行(コースイン~選手紹介)
15:25 -	GP250 決勝レース..... 15Laps

※レース終了後~サーキットクレーシング

### 2007年 MFJ 全日本ロードレース選手権第4戦 スーパーバイクレース in 九州



大会情報、レース情報が満載の公式プログラム。この予選速報号と一緒に読めば、レース観戦はバッチリ!!

<大会記念>

公式プログラム 1,000円(税込)

「事前テストでは、時間がなくロングランができなかったんで、予選、スーパーポールのフリー走行も使ってマシンを仕上げていた。スーパーポールでは、柳川さんが速いタイムを出していたし、走っている感覚では、51秒台かと思っていたので(ポールポジションは)無理かと思っていた。決勝も、今の自分の状態ベストを尽くすだけです」と秋吉。昨年もポールポジションを獲得しているが、今年はチーム体制が変わっている。スタンダードの車体を仕上げながら速さを見ているが、まだ優勝はない。オートポリスで今季初優勝を達成できるか?!

また、昨年、オープニングラップに第2ヘアピンでコースアウトしながらも、驚異的な追い上げを見せて2位となった柳川明は、「みんな速いし、予選タイヤでタイムを出せていない」とスーパーポール前に語っていたが、しっかり2番手グリッドにつけ、こちらもオートポリス初優勝を狙う。

3番手にはテストから好タイムをマークしている酒井大作がつけ、徳留、渡辺篤、ノリック、中須賀克行、辻村と続いた。

決勝は、秋吉、柳川、そして徳留を中心に酒井、渡辺篤のヨシムラ勢、中須賀克行、大崎などの九州勢が速さを見せそうだ。オートポリスで優勝経験がある辻村、山口辰也もトップ争いに絡む可能性がある。

盛り上がることも間違いなし!! 最高峰クラスの迫力のバトルから目が離せない!!



**POLE POSITION 秋吉 耕佑 1'50.058**

「事前テストなどでロングランできていないので、予選やスーパーポールでは車体を変えながら走っていました。スーパーポールでは前後のサスペンションを変え、一発逆転できた。僕の前に柳川さんがすごいタイムを出していたし、追いつけないだろうと思っていたから、狙って出したタイムではないんです。マシンはまだ仕上がっていないけれど、方向性は見えているので、あとはタイヤとのバランスですね。決勝では僕がかきまぜるか、人がかきまぜるか分からないですが、面白いレースを展開していきたいと思っています」

## JSB1000 CLASS STARTING GRID

1	1'50.058 4 秋吉 耕佑 GSX-R1000K7	2	1'50.302 87 柳川 明 ZX-10R	3	1'50.474 39 酒井 大作 GSX-R1000
2	1'50.621 54 徳留 和樹 CBR1000RR	4	1'50.633 76 渡辺 篤 GSX-R1000	5	1'50.691 81 阿部 典史 YZF-R1
3	1'50.797 9 中須賀 克行 YZF-R1	7	1'51.123 7 辻村 猛 CBR1000RR	8	1'51.702 3 山口 辰也 CBR1000RR
4	1'51.984 10 亀谷 長純 CBR1000RR	10	1'52.091 62 横江 竜司 YZF R1	11	2'00.757 75 大崎 誠之 YZF-R1
5	1'52.481 73 安田 毅史 CBR1000RR	13	1'52.578 48 手島 雄介 CBR1000RR	14	1'52.609 30 波多野 祐樹 GSX-R1000K7
6	1'53.411 23 本田 晃司 GSXR1000K7	16	1'54.536 11 須貝 義行 CBR1000RR	17	1'54.726 6 奥田 貴哉 CBR1000RR
7	1'55.188 52 長辻 啓 GSX-R1000	19	1'55.251 31 東村 伊佐三 ZX10-R	20	1'55.545 16 川瀬 裕昌 GSX-R1000K7
8	1'55.560 21 名倉 嘉一 CBR1000RR	22	1'56.082 45 久野 勝己 CBR1000RR	23	1'56.349 46 西 浩史 YZF R1
9	1'56.639 999 堀 義光 999R	25	1'56.778 85 古川 力也 CBR1000RR	26	1'56.947 24 荻田 庄平 ZX-10R
10	1'56.968 65 水谷 勝 GSXR1000	28	1'57.620 33 松井 秀樹 CBR1000RR	29	1'57.707 55 山下 剛 GSX-R1000
11	1'58.555 38 原田 洋孝 ZX1000D6F	31	1'58.647 88 本田 雅信 ZX-10R	32	1'58.675 58 野崎 浩司 ZX-10R
		32		33	

※12位までのタイムは、スーパーポールでのタイム順

### 全日本ロードレース選手権

## GP125 youth CUP に注目!

MFJにより、今シーズンはGP125クラスに「GP125 youth CUP」が設けられている。若手ライダーの育成を目的とするため、12歳から17歳以下のライダーが対象となっている。「GP125 youth CUP」に登録しているライダーは、下記の8名だ。成績優秀者はスペインで開催される「MotoGP アカデミー \*1」のオーディションに推薦されるため、この8名の勝負は今シーズンの見どころひとつとなっている。

第3戦終了時点での「GP125 youth CUP」のポイントリーダーは、開幕戦で勝利を挙げ、20ポイントを獲得した富沢祥也。11ポイントで渡辺一馬、5ポイントで篠崎佐助、3ポイントで矢作雄馬と続いている。

シーズンの折り返し地点となる、ここオートポリスで、ポイントの差は縮まるか? ぜひ注目して欲しい!

\*1「MotoGP アカデミー」は、ドルナ社が運営する若手ライダー育成プログラム。2006年チャンピオンの中上貴晶も、このオーディションをきっかけにスペイン選手権へ参戦するチャンスをつかんだ。

ゼッケン	ライダー名	生年月日	チーム
48	富沢 祥也 トミザワ ショウヤ	1990年12月10日	FRS
50	尾野 郡司 オノノグジ	1991年8月5日	BATTLE & MIHARA RACING
55	渡辺 一馬 ワタナベ カズマ	1990年5月6日	DyDO MiU Racing Team
68	篠崎 佐助 シノザキ サスケ	1993年6月20日	ENDURANCE
71	矢作 雄馬 ヤハギ ユウマ	1990年7月26日	ENDURANCE
72	和田 卓也 ワダ タクヤ	1991年5月19日	チームKOHSAKA
73	山本 剛大 ヤマモト タケヒロ	1993年2月26日	CLUB HARC-PRO.
76	尾野 弘樹 オノヒロキ	1992年7月15日	BATTLE & MIHARA RACING



【前列】左から、矢作 雄馬、篠崎 佐助、山本 剛大、和田 卓也  
【後列】左から、尾野 弘樹、富沢 祥也、渡辺 一馬、尾野 郡司

# 小西が逃げるか? 寺本が阻止するか?? それとも???

開幕戦でトップ争いを繰り広げ優勝した佐藤裕兒と2位となった寺本幸司が前戦で転倒リタイヤに終わったため、タイトル争いの行方も混沌としているST600。

今シーズン、ST600に再びスイッチしてきた小西良輝がやっと本領を発揮してきた。

「ボールポジションと言っても、まだまだ詰めがあまり。逃げるのは無理だと思うので、レースを組み立てて最終的にトップでチェッカーを受けたい」と、前戦でレースをコントロールしながら最終ラップにかかわられて2位となった悔しさをぶつける構えだ。

2番手につけた寺本は「予選では、アタックは極力せず、サスペンションを煮詰めることに集中し、順調にきている。決勝は、小西さんが逃げると思うけれど、逃がさず、後ろでレースをコントロールしたい。ギャップに打ち勝ってブレーキがかけられるスズキのいいところを武器に勝負したい」と自信のコメント。

3番手の野田弘樹は、前戦の決勝で転倒。マシンを大破させてしまい、今回がシェイクダウン。フロントロウにつけたが、厳しいレースになりそうだ。

暫定ランキングトップの高橋英倫は、一発こそ出なかったもののアベレージでは、まずまず。トップ争いに加われば、前回のように最後に前に出て行く可能性も高い。暫定ランク2位の奥野正雄も、しっかり4番手につけ、虎視眈々とトップを狙う。

決勝は、小西が逃げればトップ争いは、少数となりそうだがペースが遅くなれば混戦になることは必至。レース序盤にイニシアチブを握るのは誰だ!?



**POLE POSITION** 小西 良輝 1'56.531

「周りからは順調そうに見えるかも知れませんが、まだまだ課題はいっぱいあります。(ボールポジションは)チームやスタッフに恵まれているので出せた結果ですね。(決勝は)ぶつぎりで逃げるのは無理だと思う。冷静にレースを組み立てられて、最終的に1番でチェッカーを受けられるような作戦が取れたらいいけど、簡単には逃げられないでしょうね。前回、筑波での結果は2位でしたから、その悔しさをぶつけて、一番でチェッカーを受けられたらいいですね」

## ST600

## 予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	73	小西良輝	1'56.531	急募.com HARC-PRO
2	5	寺本 幸司	1'56.690	Moto Map VEGA
3	12	野田 弘樹	1'56.926	レーシングチーム ハニービー
4	6	奥野 正雄	1'56.997	伊藤RACING-GMDスズカ
5	51	泉本 真宏	1'57.074	仙台森くま 蔵王の秘湯銭々温泉
6	8	高橋 英倫	1'57.169	TEAM GREEN
7	10	佐藤 裕兒	1'57.397	ジュビロ レーシング チーム
8	25	東浦 正周	1'57.477	ブルースターレーシングチーム
9	88	武田 雄一	1'57.629	Team 桜井ホンダ
10	19	鶴田 竜二	1'57.763	TRICK STAR TAMITON-R
11	72	宮崎 敦	1'57.773	DOG FIGHT RACING
12	20	岩田 悟	1'57.830	F.C.C.TSR
13	55	高橋 江紀	1'58.077	DyDo Miu Racing
14	11	森 新	1'58.135	急募.com HARC-PRO
15	23	沼田 憲保	1'58.195	HITMAN RC甲子園ヤマハ
16	29	津田 拓也	1'58.455	チームOSG&モトスポーツ
17	76	清水 直樹	1'58.486	RS-ITOH&KAZE
18	27	中山 真太郎	1'58.692	Kohara KAZ
19	43	生形 秀之	1'58.755	エスハルストリームレーシング
20	56	原田 貴史	1'58.962	CLUB HARC-PRO.
21	45	和泉 美智夫	1'59.018	ホンダドリーム北九州RT-S.M.I.
22	44	児玉 勇太	1'59.123	DDBOYS Racing
23	59	荒瀬 貴	1'59.172	TEAM江上・ケイファクトリー
24	69	小林 龍太	1'59.206	バーニングブラッドRT
25	33	下地 申悟	1'59.410	アンビシャス Panasonic LUMIX
26	89	須藤 貞仁	1'59.563	ホンダドリーム北九州RT
27	37	行方 知基	1'59.618	ヨシムラスズキwithJOMO
28	83	原田 武人	1'59.735	
29	71	井口 寛人	1'59.848	輪軸withRSCと木原電装
30	54	井上 哲悟	1'59.909	TRICK STAR TAMITON-R
31	99	高杉 奈緒子	1'59.985	レーシングチーム ハニービー
32	87	吉田 眞悟	2'00.151	ホンダドリーム北九州RT
33	64	和田 史郎	2'00.244	VEGA SPORTS
34	15	福垣 誠	2'00.356	バーニングブラッドRT
35	96	吉田 光弘	2'00.390	ホンダドリーム北九州&Life
36	57	横塚 好輔	2'00.546	SBS磐田
37	82	鮫島 大輔	2'00.629	carubi TSR
38	34	川原 英実	2'01.263	TEAM PLUS ONE
39	65	森園 宗宏	2'01.767	PM,Nooks スーパマジック
40	49	瀬上 敦	2'02.389	ライダーズレーシング

# 井手敏男が今季初ポール! 混戦が予想されるレースを制するのは誰だ!?

GP125も公式予選は40分から35分に短縮され、朝の特別スポーツ走行でセットアップを詰め切れなかったライダーにとっては厳しい状況だった。公式予選開始から約5分後に転倒車両がコースをふさぎ、赤旗が提示されたため、再度コースオープンしてからの残り時間は29分。タイムアタックのチャンスは更に狭まった。コースを知るベテランライダーが有利という大方の予想通り、ボールポジションを獲得したのは、序盤からリーダーボードのトップを維持していた井手敏男。井手は最後のアタック中に転倒し、自己の目標タイムには届かなかったものの、9周目に出したトップタイムは破られることはなかった。

ベテランライダーに分け入って、自己最高の2番グリッドをゲットしたのが、全日本参戦2年目の渡辺一馬だ。渡辺はデビューシーズンだった昨年も予選4位、決勝5位を獲得しており、オートボリスは相性のいいコース。決勝では初表彰台も期待できそうだ。

現在ポイントリーダーの岩田裕臣は3番手。トップを走りながらも転倒を喫した2年前のリベンジを果たしたいと闘志に燃えている。フロントロウは逃したものの、仲城英幸、徳留真紀、富沢祥也らも決勝ではトップ争いに加わるはずだ。

「タイム的には納得していないけれど、ボールポジションは予定通り。ここはスリッパが効くサーキットだから、決勝ではトップ争いは5、6台の集団になるはず」と言う井手。上位のライダーは異口同音に混戦を予想しており、気の抜けないレースが展開されるのは必至だ。125ならではの壮絶なバトルが見られることは間違いないだろう。

なお、5番手につけていた菊池寛幸は予選中に転倒、怪我を負ったため、決勝は欠場となっている。



**POLE POSITION** 井手 敏男 1'58.939

「他のクラスと違って、(全体的に)タイムも全然出ていないし、タイムアタック中にこけちゃったし、仕上がりがいいとは言えないですね。1分57秒台には入るんじゃないかと思ってたけど、チャンスを逃しました。決勝は絶対混戦になるはず。スリッパの使い合いになると思います。僕はスタートでいつも出遅れてしまうので、今回はタイヤを使いすぎないように追いついて、最後に勝負したいですね。追い上げが僕のスタイルなので、焦らずにいきます」

## GP125

## 予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	5	井手 敏男	1'58.939	Feel&TEC.2
2	55	渡辺 一馬	1'58.970	DyDo Miu Racing
3	6	岩田 裕臣	1'59.557	TEAM PLUS ONE
4	10	仲城 英幸	1'59.568	TEAM ASPIRATION
5	4	菊池 寛幸	1'59.569	BATTLE&ミハラレーシング
6	25	古市 右京	1'59.665	TEAM ASPIRATION
7	11	徳留 真紀	1'59.708	TEC・2&feel
8	48	富沢 祥也	2'00.276	TeamProject&FRS
9	13	山田 亮太	2'00.290	TEAM PLUS ONE
10	23	中村 貴紀	2'00.419	Team Life
11	8	山本 武宏	2'00.475	チームMARINEコスモス+G
12	61	柳沢 祐一	2'00.476	18 GARAGE RACING TEAM
13	19	大石 義次	2'00.776	TEC.2&Feel
14	21	長谷川 裕	2'00.886	RISKY+ホワイトレーシング
15	27	天野 邦博	2'01.123	ホンダ映山レーシングチーム
16	14	東 幸寛	2'01.272	RISKY+ホワイトレーシング
17	3	竹内 吉弘	2'01.338	RP馬行&YUE&Promathic-I
18	7	井上 誠	2'01.421	BATTLE&ミハラレーシング
19	77	今中 満	2'01.457	RISKY+ホワイトレーシング
20	15	浪平 伊織	2'01.569	Honda鈴鹿レーシングチーム
21	24	水野 那由太	2'01.778	TEC.2&Feel
22	18	國吉 基寛	2'02.011	SMFレーシング MKN
23	71	矢作 雄馬	2'02.013	桶川&ENDURANCE
24	17	花房 一樹	2'02.400	TEAM FORS SEJ
25	76	尾野 弘樹	2'02.691	BATTLE&ミハラレーシング
26	68	篠崎 佐助	2'02.975	ENDURANCE&桶川&ENDURANCE
27	84	橋本 齊志	2'03.134	CLUB Y's
28	52	増田 雄亮	2'03.148	Honda鈴鹿レーシングチーム
29	65	船田 英生	2'03.174	チーム ウィリー
30	62	和田 卓也	2'03.292	チーム KOHSAKA
31	82	山内 隆史	2'03.377	レインボーキート&YUE
32	50	尾野 那司	2'03.469	BATTLE&ミハラレーシング
33	22	岩田 吉正	2'03.916	BATTLE
34	75	松村 徳人	2'04.032	KTR&ENDURANCE
35	78	日野田 誠	2'04.205	カジタRacing&ココキ
36	62	小川 将文	2'04.244	STING R&D+FLEX
37	41	沖藤 隆一	2'04.858	オートテクニクススポーツ48会
38	73	山本 剛大	2'04.997	CLUB HARC-PRO.
39	70	福島 宏幸	2'05.652	RISKY+ホワイトレーシング

# 宇井陽一を止めるライダーは現れるか!?

開幕戦、そして第3戦筑波と2戦連続で独走優勝を飾っている宇井陽一。今回の予選も宇井が常にセッションをリードし、ポールポジションを獲得している。「金曜日に走れなかったわりには、まずまずのタイムを出せた。前回に比べれば足回りも決まっていないうし、ここは路面のμが特殊だけれど、うまくタイヤをもたせて走りたい。スタートで前に出て、いつものパターンでいきたいね」と宇井は、自信満々のコメント。

2番手に高橋巧がつけ、今回こそと打倒宇井に燃えている。「予選は、セッティングを外してしまいました。テストで自己ベストを更新していたので、53秒台に入れたかったですね。決勝は、セッティングを戻して、スタートで宇井さんに離されないようにしていきたい」と高橋巧。エンジンも走っており、課題はレース序盤のペースの上げ方だろう。3番手には、GP250、2年目の濱本裕基がつけた。「タイヤとサスペンションのマッチングがなかなか出せなかったけれど、やっといい方向に来ている。レースは、54秒台から55秒台になると思うけれど、できれば53秒台に入りたい。最低でも表彰台に上がりたいですね」とホームコースで上り調子な濱本。

現在、ランキング3番手につけている及川誠人は、4番手に沈み、セカンドロウからのスタートとなった。山崎郡が5番手、伊藤勇樹が6番手と今季最高のグリッドを確保。富沢祥也は、GP250でオートポリスを走るのは初めてだったため、予選は一度もピットに入らず走りきったという。「宇井さんの後ろ姿を見ながらレースをしたいですね。明日は2レースとも最後まで楽しみたいですね」と前回、両レースで転倒りタイヤに終わった雪辱を晴らしたいところだ。

今回も宇井が逃げ、巧、濱本、及川、富沢などが追う展開になるだろう。宇井が今回も独走することができるか!?



**POLE POSITION** 宇井 陽一 1'53.313

「今までたくさんのサーキットを走ってきたけど、ここはどこにもデータが見つからないようなコース。アップダウンが激しくて、1周も長いし、前半と後半でまったく違う。どちらかに合わせるしかないで、僕は後半にセッティングを合わせています。今日はコースレコードを狙っていたんですが、タイムを勘違いして、1分53秒3を出した時点でアタックをやめてしまった。52秒台は出せたのに、出しそびれちゃった感じです。でも、コースインしてすぐにいいタイムが出せている。決勝は、スタートがうまくいったら、筑波の時のように逃げたいですね」

## GP250

## 予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	41	宇井 陽一	1'53.313	PRO-TEC&Spruce
2	4	高橋 巧	1'54.071	バーニングブラッドRT
3	7	濱本 裕基	1'54.972	TEC2&Feel.九州共立大学
4	5	及川 誠人	1'55.768	ウィルクセス&プラスミュー
5	56	山崎 郡	1'55.801	HITMAN RC甲子園ヤマハ
6	19	伊藤 勇樹	1'56.004	DOG FIGHT RACING
7	48	富沢 祥也	1'56.438	TeamProjectμFRS
8	14	及川 玲	1'56.508	ペンタグラム&株岡岡&M-Ra
9	8	秋田 貴志	1'56.584	Henkel TDR YAMAHA
10	92	國川 浩道	1'56.897	SP忠男レーシングチーム
11	16	櫻井 大幸	1'56.935	KEIHIN kohara R.T.
12	45	Doni Tata Pradita	1'57.358	ヤマハ インドネシアRT
13	6	秋谷 守	1'57.821	チーム モトスペース
14	31	渡辺 一樹	1'57.828	Team Danke Racing
15	93	遠藤 卓実	1'58.112	PRO-TEC&新潟工業短大
16	50	中尾 健治	1'58.331	レイラスポーツ
17	25	福山 京太	1'58.877	Team Danke Racing
18	26	柴原 誠	1'58.896	Team Danke Racing
19	54	坂井 貞夫	1'59.178	銀色バイク・モチュール・中村塾
20	49	白木 晶夫	2'00.729	レイラスポーツ
21	72	木村 旭厚	2'00.941	PRO-TEC日大工学部機械研
22	62	中本 都	2'01.958	RT-OUTRUN
23	27	斉藤 一輝	2'02.217	パワーバイレーシング+MRF

# 本命・小室旭が今季2度目のポールポジションを獲得!

ランキングトップにつけている小室旭がセッションをリードし、2分5秒070までタイムを縮めポールポジションを獲得した。

「今回は、単独でタイムが出ているし、GP-MONOに合ったライディングを考えながら走っているのがいい方向にいている。エンジンの調子もいいので、いい走りができれば成績はついてくるでしょう」と小室。

2番手には、やはり元GP125ライダーの星野知也がつけ、3番手に平石理と続いた。

「そろそろ表彰台に上がりたいのですが、レース序盤が課題なんです。落ち着いて前につけていきたいですね」と平石。

前回3位の森隆嘉は、4番手、以下、江崎屋学、岡田義治と続き、3列目に古川真一、乃村康友、中村公彦が着ける結果となった。

昨年のチャンピオン山下祐は、接触とマシントラブルのために、思うように走れず11列目33番手グリッドと後方からのスタートとなってしまった。しかし、特別スポーツ走行では、初めてオートポリスを走るにも関わらずトップタイムをマークしてただけに、激しい追い上げが見られるかもしれない。

レースは、小室がコントロールできるか? 混戦になれば、他のライダーにも勝機が見えてくるはずだ。



**POLE POSITION** 小室 旭 2'05.070

「GP-MONOクラスは全体にタイム差があるので、予選では遅れてコースインして、単独で走るようにしました。GP125からGP-MONOへの乗り換えにはまだなじんでいないけれど、チームメイトの富沢くんが125から250に乗り換えるのを参考にして、今回から乗り方を変えました。マシンのセッティングもばちばち進んでいます。予選タイムは気にしないで走っていたけど、心のどこかではポールポジションを取りたいと思っていたかも。決勝では、自分のこれまでの集大成というか、最高の走りをみなさんに見てもらいたいと思います」

## GP-MONO

## 予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	56	小室 旭	2'05.070	TeamProjectμFRS
2	46	星野 知也	2'05.494	エスバルドリームレーンジャー
3	10	平石 理	2'05.628	レーシングチーム ハニービー
4	2	森 隆嘉	2'06.098	TEAM PLUS ONE
5	20	江崎屋 学	2'06.116	IS-P.CC/プリミティブR
6	3	岡田 義治	2'06.148	MRF&プロマテックアイ
7	5	古川 真一	2'06.201	チームライディングスポーツ
8	83	乃村 康友	2'06.391	モリワキクラブ
9	68	中村 公彦	2'06.658	IS-P.CC/プリミティブR
10	88	植田 智広	2'06.767	Team Life
11	7	藤崎 直之	2'07.060	チームスガヤ&PILOTA
12	73	山本 晃大	2'07.413	CLUB HARC-PRO.
13	4	赤間 清	2'09.281	CLUB HARC-PRO.
14	19	法月 多嘉夫	2'09.731	M・A・R・S elf
15	86	本田 忠昭	2'09.937	グローリーベア&Eng林☆OGK
16	39	小川 龍祥	2'09.946	広島カジャレーシング
17	38	中村 正秀	2'09.980	HE&九州工業大学
18	33	七條 友明	2'10.184	チームいずみ+留米中央保険
19	16	榊原 徹	2'10.421	ZIPBIKE豊橋ユビックR
20	52	小畑 仁	2'10.796	MOTO WIN RACING
21	31	宮原 隼	2'10.911	広島カジャR&クスタニ広島店
22	93	池田 雄二	2'11.250	RSS★SHOWA
23	34	橋元 晃一	2'11.302	Garage130R&FUSE
24	55	吉島 正治	2'12.259	YG55&RH松島
25	21	岩本 有司	2'12.494	銀色バイク・レイステック・南岩本商事
26	94	保 貴久	2'12.613	チームライディングスポーツ
27	30	三好 菜摘	2'12.797	パワーバイレーシング
28	36	中野 佳則	2'13.060	アゲインレーシングクラブ!
29	71	笹崎 明仁	2'13.884	Garage130R&FUSE
30	37	福岡 大吾	2'14.112	M・A・R・S
31	87	萩原 洋	2'14.441	MARS&グローリーベア
32	32	今村 洋介	2'15.242	チームいずみとなつちんぐ
33	1	山下 祐	2'16.057	ZBユビックR+PLUSONE
34	35	梅林 優勝	2'16.519	TeamLife
74		岳 栄一		Teamイズミ&アイテック
40		土橋 亮一		FIRE GARAGE+130R
29		斉藤 幸大		パワーバイレーシング+MRF